

天寶初廻紇葉護逸標苾、襲滅突厥小殺之孫烏蘇米施可汗、未幾自立爲九姓可汗、由是至今兼九姓之號、因而南徙居突厥舊地、依烏德健山噶昆河居焉、雖行逐水草、大抵以北(此)山比中國之長安城、……有十一都督、九姓部落、一部落置一都督、於本族中、選有人望者爲之、破拔悉密及葛邏祿、皆收一部落、各置都督一人、每行止戰鬪、以二客部落爲「軍」鋒、其九姓一曰廻紇、二曰僕固、三曰渾、四曰拔曳固(即拔野古)、五曰同羅、六曰思結、七曰契苾、以上七姓部、自國初以來、著在史傳、八曰阿布思、九曰骨崙屋骨、恐此二姓、天寶後始與七姓齊列(5)と記し、太平寰宇記(卷百九十九)も「自國初以來」を「自唐初以來」と更ため、其の他二三文字の異同の外、全く之に従がへり、抑も唐會要是宋の建隆二年、王溥の撰に係はると雖、其の唐初より德宗に至る迄の九朝の記事四十卷は、既に唐の蘇冕の撰する所にして、德宗以下宣宗の大中六年に至る迄の記事も、また大中七年崔鉉の監修せるものなること、晁氏郡齋讀書志及び武英殿聚珍版唐會要提要(以上兩書は唐會要に附載せるものに據る)の記する所なり、舊唐書第百八十九卷下蘇冕傳にも、冕が會要四十卷を撰し、當時行はれたることを記せり、されば上に引ける會要所載の記事は、其の性質上極めて尊重すべき依據たらざる可らず、然も此の記事に従へば、回鶻の可汗が九姓の號を兼ね、九姓回鶻可汗と稱したりしは、其の葉護逸標苾(即ち骨力斐羅)が九姓の可汗と成りしが爲にして、而して其の九姓なるものは回鶻自からを初め、僕固・拔曳固以下の九部なりと解すべく、兩唐書の示せる藥羅葛以下の九姓とは、全く相異りたるものと見ざる可らず、吾人は此の問題につき依然として唐書の記事を基とせる從來の學者の解釋に従がふべきか、或は去りて唐會要の説明に従がふ可きか、其の取捨去就を決するが爲には、進みて精細なる論證を試みざる可らず。

註① 鐵勒は隋書卷八十四鐵勒傳に、「種類最多、自西海之東、依據山谷、往往不絕」と書き起し、之に屬する多くの部族を舉